

どっかい生きてます!



地味な存在ながら、潮騒では作業隊の存在が注目されています。昨年秋にオープンした潮騒食堂「おらげのかまど」の内外装工事の多くをこなし、今は女性施設の作業場設置作業に取り組んでいます。農業隊とともに今後、就労支援の「受け皿」としての機能にも期待が高まります。(4～5ページに記事)

2015

4

潮騒農業は未来への希望と 可能性を秘める



春本番、世間はゴールデンウィーク(GW)です。この時期、潮騒では就労支援活動として取り組む農業が本格的に動き出します。農場では今年も茨城県が露地栽培の北限とされる野菜としての青パパイア栽培に挑みます。これの定植作業に始まり、GW明けには潮騒水田で田植えがあります。新潟県で長く稲作に取り組んできたベテランの農業隊メンバーが今年も豊作を目指します。潮騒産コシヒカリは自家消費に加え、潮騒食堂「おらげのかまど」開店で需要が伸びたことを受け、作付面積を倍増します。農場の畑ではジャガイモ収穫に続き、主力農作物のサツマイモ苗の植え付けがあります。今年は焼きイモや干しイモづくりに励み、商品化して本格的に販売する計画です。地元JAへの出荷だけでなく、食堂隣に自前の農産物直売所も整備したので、地元の支援農家の力を借りて1年を通して多品種の野菜づくりを進めます。

潮騒農業はよくある障害者の“福祉農業”ではなく、道は険しくとも商業的に成立する“自立農業”を目指しています。受託した耕作面積は、もはや地元の大規模農家を凌ぐ勢いです。そのため、さらに中古トラクターやコンバインなど農業機械一式を新たに揃えました。ハード環境整備とともに今後、農業隊の主力メンバーは専門機関で短期農業研修を受ける予定です。

潮騒農業については私自身、ハイペース過ぎるのではないかと反省がない訳ではありません。先行投資も「潮騒の持つ基礎体力を超えていないか」「あとになって施設経営を圧迫しないか」と懸念の声も聞かれます。でも私は、3年間にわたり取り組んだ「潮騒ファイザープロジェクト」で到達した潮騒農業の成果によって、確かな手ごたえを得ています。だから、これに潮騒の未来を託そうと考えています。決して一か八かの賭けではありません。私には“勝算”があるからこそ、ここまで大きな決断ができるのです。

国やメディアは日本の農業について厳しい状況や曲がり角を強調しますが、産業構造の変化や経済効率性など既存の価値観からすると危機なのでしょうが、依存症のケアの視点からはまったく違って見えます。もはや失うものは何もない私たちです。農業の根本にあるメカニズムこそが、私たちの“救い”に通じる回復のプログラムだと考えるのです。農業の秘める偉大な自然治癒力、回復力、言葉で説明できないスピリチュアルな力こそが、アル中・ヤク中・ギャンブル中毒者には回復の希望につながることを実感したのです。潮騒 JTC がここまで自力で農業環境を整備でき、農業隊や高齢者らの農業班メンバーが自信と誇り、生きがいを得たのは、3年間に及んだファイザープログラムの下支えがあったからです。でも、問題はこれからです。私たちには失敗はつきものです。それを肯定する広い心で潮騒農業の発展を見守ってください。

(センター長 栗原 豊)

今年の花見は近場の 城山公園で サクラを満喫



潮騒JTCの春季行事、サクラの花見イベントが4月3日、桜の名所として市民に人気スポットの鹿嶋市城山の鹿嶋城山公園で行われ、淡いピンク色に染まったソメイヨシノを鑑賞しながら、みんなでお弁当を食べました。昼食後は恒例の青空俳句会も開かれ、お題のサクラを愛でながら仲間たちがたくさんの作品をつくり、それぞれを批評し合って大いに盛り上がりました。

同日はうららかな春の日差しとはならず、あいにく今にも雨が降りそうな怪しい雲行き空模様でしたが、公園のサクラは例年よりもやや早めに咲き出し、7、8分咲きと見頃を迎えました。仲間たちは公園の一角に大きなブルーシートを敷いて、ソメイヨシノを見上げながら寝転んだり、まどろんだりしながら花見に興じました。

春の花見イベントは日帰りミニ旅行も兼ねて、これまでは少し遠出してきましたが、サクラ開花時期の天候具合や施設のスケジュールの多忙化などから、久しぶりに鹿嶋市中心部にある潮騒デイケアから徒歩20分程の近場にある城山公園としたため、いつもはなかなか参加できないメンバーも顔を見せてくれました。

依存症の治療・回復をめぐる地域の潜在ニーズは高く、依然として潮騒にも入寮希望者は多く、できるだけ受け入れていますが、大所帯の運営は大変です。個別ケアに力を入れると同時に、なるべく仲間全員が参加できるイベントを組もうと、下支えのスタッフは知恵を絞って計画を立てています。花見は入寮者の人気イベントだけに今後もできるだけ取り組んでいきたいと考えています。

幸い、近場に城山公園があるので、花見以外にも散策や健康づくりに生かしたいと思います。この公園は古くは常陸国の有力武将の鹿島氏の居城で、本丸跡が桜の名所として知られています。ソメイヨシノの他にもシダレザクラやヤエザクラなど約300本を超える桜が植えられています。観光スポットはもちろん市民の憩いの場でもあります。「かしま桜まつり」も開かれ、夜もライトアップされるので夜桜も楽めました。公園は眼下に北浦や神宮橋が望めます。サクラに続いてヤマツツジも咲くので、これも楽しみです。(ひ)





どっこい作業隊も忘れないで〜 「手に職を持つ」プロ集団の取り組み

潮騒 JTCの主役は農業隊だけじゃない。俺たち作業隊の存在も忘れずにクローズアップしてほしい。最近、潮騒では作業隊(仕事隊とも呼びます)の活躍が光ります。地味で目立たない活動ですが、リーダーシップのある入寮者のシュンさんやテイさんが仲間を引っ張ってチームワークもよく、地元の鹿嶋だけでなく鹿行地区のあちこちに増えている関連施設の営繕活動では、文字通り「主役」を張っていくことが期待されます。昨年秋にオープンした潮騒食堂「おらげのかまど」の内装の多くは、我が作業隊の手によるものです。

「働く」ことへの強いこだわりがバネに

話は、今から半世紀近く前に遡ります。不遇な家庭環境から少年時代に非行に走り、青年期には暴力団の世界に身を沈め、次第に任侠道の世界で頭角を現していった栗原センター長ですが、一方で「働く」ことには人一倍、精力を傾けました。ヤクザのしのぎの枠を超え、人がやらない危険な土木建築や解体などの仕事を生業として請け負う会社を設立。今日隆盛を誇る人材派遣事業を先取りして、同じように世間からはじかれた人生の者たちを雇い入れ、肉体労働系の日雇い派遣事業(いわゆる人夫出し)にも力を入れました。

この仕事は栗原センター長のリーダーシップによって

順調に成長しましたが、結局はその後に深刻化する薬物(覚醒剤)とアルコール問題によって立ち行かなくなってしまいました。しかし、この時にセンター長の事業才覚と仲間をまとめる力を評価してくれた、古くから故郷(埼玉県)で付き合いの合った造園や土木建築関係の職人や事業者らとは細々と付き合いが続いていました。これらの人たちは、後に潮騒JTCが仕事プログラムに取り組むようになると協力を惜しまず、ずいぶんと助けられました。

仕事プログラムをボランティアで導入

栗原センター長は、自身の経験から薬物依存の導入役を果たすアルコールが実はやめにくく、むしろ合法なだけに厄介な側面があることを自身の依存症体験から感じていました。一方で、アルコール依存症者は過去に一定の就労体験があり、依存症のリハビリに励みながら就労環境や条件を整えれば、社会復帰しても手に職があるだけに再度、復職できるとの確信を抱くようになりました。そのため、早くからダルクでは手を付けにくい「出口」問題に挑み、一定の回復を前提に社会復帰に向けた職業訓練への足掛かりと就労への動機付けを図ろうと、地元の協力者の支援を得て仕事プログラムを組み、希望者に参加させました。

具体的には、▽農作業の補助 ▽シイタケ栽培(原発事



故で中止)▽庭木の手入れ・造園管理▽壁や塀ペンキ塗り替え▽除草作業▽簡易リフォーム—などの仕事を請け負い、これらは入寮者の賃仕事ではなく、地域貢献のボランティア活動の一環として位置づけました。

参加者の中には労働に対する対価を求める声や不満もありましたが、生活保護受給との関係で行政との事務手続きが煩雑になり、どうしたら入寮者に還元できるかの課題を抱えながら、うまく対処できませんでした。しかし、法改正によって報酬問題にも光が当てることが可能になってきました。結果として仕事プログラムは、入寮者の自立心や達成感につながり、仕事を受けた地元の受益者からは任意で献金が寄せられ、苦しい台所事情の潮騒にはプラスとなってきました。

「かつての職人は現場で鍛えられた」

来年度に本格施行となる刑の一部執行猶予制度では、潮騒でも「受け皿」機能が求められます。その準備で当該施設の整備に力を入れながら、増え続ける入寮者を受け入れる関連施設の確保にも努めています。いずれも中古物件を手に入れているために、補修や改修が不可欠です。経費負担の問題から建築業者に全面委託はできません。ここで登場するのが、我が作業隊です。とはいえ、彼らも他の入寮者と同じように基本は依

存症の回復が基本。これについてリーダーのシュンさんは、こう説明します。

「かつての職人は現場で鍛えられた。自分は塗装業が専門ながらも、現場の要請で建築や土木、時には水回り修繕もこなすまでに技術を身に付けた。今ではこれが大いに役だっている。でも、いい気になっていると“落とし穴”にはまる。俺はもう大丈夫、一人前にカネを稼げるんだと錯覚する“治っちゃった”病です。すると簡単にスリップする。何人かはそうになりました。自分らには反面教師の存在です。だから作業隊の仕事は6、7割でいい。それが社会での100%と同じこと。要は自分たちのペースでやれることが大事、毎日ミーティングに参加することが作業隊の仕事でもあるんです」

就労支援で農業隊と肩を並べるように

現在は、神栖市の女性施設で就労継続支援B型の認定を受けるのに必要な作業場の建設に力を入れている作業隊。栗原センター長は「できるだけ多様な回復支援の在り方を模索したい。仕事プログラムで生まれた作業隊だが、将来ビジョンのアディクションビレッジ構想では、就労支援の形として農業隊と型を並べるようになってほしい。実際、農業隊では無理でも作業隊で能力を発揮している仲間もいる」と期待を寄せています。(み)

女性施設メンバーも熱心に農業プログラムに励む

昨年、神栖市に開所した潮騒JTCの女性専用依存症回復施設「ルミの家」でこのほど、入寮者が農業プログラムの一環としてジャガイモの定植作業をしました。時期としてはやや遅れ気味ですが、そこは“いい加減=良い加減”の潮騒流「なんとかなるさ」精神で乗り切っていきます。

女性メンバーは現在、数人が潮騒食堂「おらげのかまど」の運営スタッフとして加わっていますが、女性施設が本格的に稼働し始めたことから就労継続支援B型として農業プログラムを採り入れ、積極的に就労に向けて挑んでもらうことになりました。このため市内に専用の農場を借り受け、農作業を年間計画に盛り込みました。依存症で傷んだ心と体、家族関係も壊れてしまったマイナスの人生ですが、今後は自然と向き合いながら作物を育てることを通して人間としての修復を図っていきます。

作業日の3月下旬は、男性施設の農業隊メンバーが助っ人に参加。女性メンバーの何人かは、これまで農業隊と一緒に何度か農作業をしてきた経緯もあって、その動きはとてもスピーディーでした。初めての女性メンバーも楽しそう？にやっていました。女性には体力的にキツイかなとの懸念もありましたが、いざやってみると男性メンバーの方が煽られる場面もありました。農業隊の古参メンバーよりも動きがいいかなと思わせたくらいです。

潮騒農業隊リーダーのヒトシさんは「作業日は、女性隊の“農作業着”がユニークでとても面白かった。これからの農業には女性の感覚や感性が反映されることが大事なので、昔の“農家の嫁”のような暗いイメージを払しょくして、みんなで明るく楽しい農業をやってほしい」と話していました。(か)



「道の駅いたこ」で冷凍青パパイアの販売がスタート

東関東自動車道の潮来ICを下りて1分という地の利に恵まれ、観光客や地元住民に人気の「道の駅いたこ」(潮来市前川)でこのほど、潮騒農場で収穫した冷凍青パパイアが販売できるようになりました。まだスタートして日が浅いことから定着するかどうかは未知数ですが、潮騒JTCが得意？とする“強きの行動力”で試行的ながら新たな販路が開けました。“案ずるより産むが易い”で、やはり物事はやってみなければ分からないことを実感しました。

当初、潮騒JTCでは稲敷市の農産物直売所に冷凍青パパイアを出荷する計画でしたが、うまくスケジュールが合わずに破談になってしまいました。これでへこたれないのが潮騒精神です。たまたま通りかかった「道の駅いたこ」に直談判したところ、何とかOKをもらったのです。店先には「セールスお断り!」と書いてありましたが、我が栗原センター長が思い切って直談判。この強気の姿勢が功を奏したのです。センター長が日頃口にする「やればできる!ハイヤーパワーは私たちを試してくれている」の手本を、自ら示した格好です。

これまで報告したように、潮騒ファイアザープロジェクトの柱となる潮騒農業の戦略作物として取り組んだ昨年の青パパイア栽培は、おかげさまで大豊作となりました。農場と連携した潮騒食堂「おらげのかまど」で食材として自家消費していますが、青パパイアは常温保存できないために収穫した大部分を冷凍保存しています。今後は販路の開拓が課題なので、あちこちアンテナを張って出荷先を模索しています。まだまだ野菜としての青パパイアは一般の人にはなじみが薄く、どうしても南国フルーツの甘いイメージが強いようです。

しかも冷凍の青パパイアというと、「えっ、果物じゃないの?」「どうやって食べるの?」などと素朴な質問が数多く寄せられます。道の駅では、実際にお客さんに試食してもらっていますが、正直なところ反応はいまいちです。もともと味が無いのが青パパイアの特徴みたいなものなので、味覚ではなかなか引き付けられないなら健康面での効用を、と熱心にPRしています。販売個数はまだまだですが、いろんな形で販売方法を工夫しながら継続することが大事なので、道の駅販売を続けていきます。(ひ)

入寮者家族から贈り物(献品) ～送迎用のワンボックス車寄贈される

入寮者の家族からこのほど、潮騒 JTC にビッグな贈り物(献品)がありました。大所帯の潮騒には必需品の乗用車、それもワンボックス車として人気の日産エルグランドです。整備状況もよく、まだまだ現役として十分に走れる車です。

寄贈してくれたのは、福島県浜通りで自動車販売の仕事をしている E さんです。あの 3・11 東日本大震災(2011年)で被災し、未曾有の大津波で自宅が流され、仕事を失うなど大変な苦労をされました。人生最大の困難にもめげず、命拾いしたことを教訓にして、E さんは不屈の精神で事業を再興させました。その前向きな努力と日々懸命に生きる姿勢は、潮騒の施設運営にも大きな励みとなります。

潮騒 JTC には依存症の長男が初期の頃から入寮し、回復プログラムに取り組んでいます。何度かスリップを繰

り返しながらも、少しずつクリーン期間を伸ばし、今ではスタッフの一人として頑張っています。そんな縁で E さんとは長い付き合いが続いており、陰ながら支えてもらっています。今回のビッグな献品に栗原センター長は「感謝の言葉しかない。年々被災地の苦労や困難が伝わりにくくなる中で、潮騒入寮者の被災家族が頑張っていることをもっと世間に知らせたい。潮騒は、こうした家族に支えられていることを誇りに思う」と述べています。



とかちダルクフォーラムに 栗原センター長が参加

NPO 法人とかちダルク(宿輪龍英代表)の創設 3 周年記念フォーラムが 3 月 28 日、施設のある北海道帯広市内で開かれ、全国からダルク関係者ら延べ 160 人が集まり、充実したプログラム内容で盛り上がりしました。潮騒 JTC からは栗原豊センター長が参加して仲間と交流を深め、3 周年を祝いました。

同日は絵本とギターの弾き語りという、従来のダルクにはなかった癒し系のプログラムがあり、新鮮な印象を抱かせました。また、日本ダルク代表の近藤恒夫さんに続き、日本ダルクスタッフで元タレントのマーシー(田代まさし)さんもメッセージに立ちました。マーシーさんは「依存症のマーシーです。ダルクにつながって、やっとありのままの自分を受け入れられるようになりました。仲間の回復の手伝いをすることが、今の自分の回復につながっています。できれば回復後は芸能人専用のダルクをつくりたい」と語りました。

とかちダルクは 2011 年 9 月に道東の拠点として開設され、翌年 11 月に北海道ダルクから独立し、NPO 法人の認証を受けました。福祉事業所としてグループホームとデイケアセンターを運営しています。

外部の回復者メッセージを 通して自分も決意を新たに

隔月で開かれている施設のアディクションセミナー(3月29日開催)に参加しました。やはりミーティングとは違い、スピーカーは一人ひとりの持ち時間が長いので、話す仲間も大変だと思いました。生い立ち、そしてアルコール、薬物、ギャンブルへとつながった体験や失敗談など、いろんな経験を織り交ぜて話してくれた仲間感謝しています。何よりも雰囲気がとても良かったです。私個人としてはセミナーで聞きたいなあと思う内容は、やめ続けてどのようなメリットがあったのか、あるいはあるのか、そして現在の目標や希望などです。ありがとうございました。(ノブ)



近藤恒夫氏インタビュー

短期連載

Vol.4

「ダルクと就労支援について」

— 近藤さん自身が直接、海外研修で見聞を広げたということですが、依存症治療の先進国だけに欧米の治療共同体のスケールはダルクとは桁違いですね。

近藤 そうだね。依存症ケアの問題では当時できえ、その取り組み方において日本とは30年以上の開きがあったね。実際に海外を見てきてそう感じた。

— やはり施設の利用者が増えて図体がでかくなれば、どうしたってそれに付随して必要な役割や仕事が出てきます。それこそ自分たちの施設の中で細々と担っていた役割が次第に必要な仕事になってくる、という訳ですね。

近藤 人が増えることで、そこに仕事のニーズが生まれ、雇用の場が生まれる、必然的に就労の場が確保できるという流れだな。海外のリハビリ施設ではそれを30年前からやっていた。

●「他に頼れないなら自分たちでつくろう」

— 考えてみれば、それってダルクの原点ですよ。近藤さんがダルクをつくった初発の契機に通じます。同じ依存症ながら、アル中にはあるのにヤク中には治療・回復の場がない。だったらヤク中の自分がつくるしかない、と。それで近藤さんはダルクをつくった。他に頼れないなら自分たちでつくろう、と。自分たちの回復に必要ななら、目の前にそれがなければいいじゃないか、という発想。それって、自分ではやろうとせずに、安易になんでも代行に頼ってしまう現代社会への警鐘かもしれませんね。

近藤 ダルクがもうちょっと組織的になれば、旅行会社だって必要になる。今でさえ、1年じゅう各地でダルクフォーラムや関連する研修会なんか数多くあるだろう。新幹線の切符を安く買うとか、航空チケットを安く買うとかでね。僕らだって年間何100万円も旅費や宿泊に使っているから、それを自分たちのところでやれば結構な収益になる。自分たちで安いチケットを手配し、購入する。そういう会社だってありだよ。企画するだけでなくて専門資格を取らせれば、自分たちで旅行会社だってできるかもしれない。

— そうですね。ダルクの人たちは仲間意識が強いから、遠方のダルクでもフォーラムがあれば飛行機や新幹線を使っていきますよね。代表者だけでなくて、みんな

でワゴン車に分乗してフォーラムに参加する光景はよく目にします。

近藤 ダルクには車は必需品だからね。車の管理は就労支援の一つかもしれない。仕事の一つに組み入れられる。

●自前で食堂を開き美味しい料理をつくる

— ところで潮騒 JTC のケースでいえば今回、助成金の一部を使わせて頂いた就労支援事業の一環として、自前で一膳飯風の定食屋と農産物直売所をオープンさせました。これって単に潮騒農場と提携して安心安全な食材を提供するだけじゃないんですね。食材の有効利用だけじゃない。100人以上が毎日、専門の弁当配達業者からの弁当を食べているんですけど、やはりみんな飽きがきている。それなりに工夫を凝らした弁当だとしても、それに経費も相当かかっている。施設暮らしでは一番何が楽しみかと言ったら食べることでしょ。もつとうまいものを食いたい、っていうのがみんなの共通した思いです。

毎日代わり映えのしない病院食のような弁当だったら、飽きがきて当然ですよ。だったら、自前で食堂を開いて、調理師の経験ある入寮者がその腕を生かして新鮮食材を使っておいしい料理をつくったら、入寮者にも喜ばれる。自立訓練や職業訓練にもなるし、それこそ一石二鳥だ。そんな背景があります。

近藤 食べることは生きる意味で一番大事なことです。おいしいものを食べたいという意欲があれば、それが行動への動機付けというか、生きるためのエネルギーにもつながる。(次号に続く)



潮騒 JTC が自前で整備した食堂「あらいげのかまど」。就労支援の“受け皿”としての役割が期待される。

しおさい俳壇

4月のお題

さくら

選者 桐本石見

今はなき

学校桜

そして母

しま

特選句

最近の人口減で過疎地の村などが消える報道もあります
が、学校の統廃合は多くあり時代の移りを思います。日
本では桜の頃に卒業入学があり、ことに地方の学校では
校庭の桜が懐かしい、その学校も廃校になり、また甘え
た母も既に亡い、自分の齢と今を顧て切々たる句です。

故郷の

桜されども

一本松

コバ

特選句

一本松は先の大地震で残った陸前高田市の松のことで今
は枯れたが希望の松として幾多の加工をして現存する。
樹齢約百八十年、高さ二十五メートル、径九十センチ。
桜も美しいがこの松の方が思いが深い、震災の復興を祈
り故郷を偲ぶ句でもあります。

遺児として

七十二歳

花の下

ユタカ

特選句

今年には戦後七十年を迎える節目の年でもあり、戦中戦後
に生きた人には諸々の思いがあります。七十二歳の今も
遺児として靖国神社に詣でたのか。私の父もビルマで戦
死したので、「七十の遺児とし祀る終戦忌」などの句が
ありますが、古来から武士に愛された桜の下で亡父を偲
ぶ句です。

桜舞ふ

追いかける子も

舞う如し

イシダ

特選句

幼い子は何事にも興味を持ち、公園などで蝶や蜻蛉など
も追い駆ける、桜が舞い散るとそれにつられて追うがま
だ幼くて左右に揺れながら追いかける。桜の咲く公園の
日和も穏やかで家族の微笑ましい姿を彷彿する句です。

秀逸句

今月の秀逸句

コジ

桜見て時の移りの早きかな

人も若い時は時間も湯水の様にある思いで遊びにも明け暮れるが、年を重ねる度に年日の経つのを早く思う。昔は人生五十年と言われたが今は八十年、人間少しは自分らしく生きたいとも思う。桜を見ながらしみじみした句です。

イチ

子の笑顔桜の様に咲きほこる

桜は昔からパツと咲きパツと散るを好かれたが、幼稚園児などは元気良く明るしい素直で似ているかも。花はみな女子に例えられるが桜もまた名前に用いて可愛い。微笑ましい句。

マジエ

桜咲く家族遠きに淋しき日

人には様々な理由に家族と離れて生活することがある、ことに現代では海外出張など多い。昔はこの鹿島から防人が集められたので、「わが妻はいたく恋ひらし飲む水に影さへ見えて世に忘れず」など万葉集にある。ことに山桜など見ると故郷や友や恋人を思う。しみじみした望郷の句でもあります。

コバ

城山の桜の下の俳句会

昔は曲水など貴族が屋敷の中の川の傍で歌を詠んだが、こうして城山に句会を開くのも趣きがあります。景の見える句です。

ジヨ

曇り空咲ひて七分の桜かな

俳句を好きになると、曇りも雨も晴にもまた、蕾みも三分も満開も散る時も夫々の趣が見えて詠みたくなりですが、花は七分咲きが一番綺麗かも知れません。艶冶を秘めて美しい句です。

アベ

城山の桜の下の茶店かな

茶店は街道の峠や観光名所の傍に多いが、花見の城跡などに臨時に設けられる。人の多いのも困るが、その城跡の謂われなど想いながらの休憩は趣きがあります。心安らぐ句です。

とん

おもしろき事もなき世の桜かな

日本では古来から秀吉の醍醐、吉野山の花見など有名で今では全国でも誰もが花見をするが、その花見程に面白い事が個人にも国にもあるわけではない。しかし桜が咲くと花便りが報じられてしばしの花見に憂さを晴らす。俳諧の哀れを込めた句です。

すみれ

桜咲き吾子の誕生思い出す

子供さんは桜の咲く四月生まれ、毎年の桜の咲く度にその日を思い、今の自分を思う。女性にとって子を産むことは命を繋ぐことであり何より大事な生涯の仕事でもあります。桜の様に人に愛され元気に育って欲しいという句でもあります。

鬼

暇閉じ故郷の桜懐かしむ

誰にも故郷がありまた思い出の山や花があります。桜は特別に思い出が深い、それは学校などで何年も見るからかも知れませんが、里を離れても桜の花を眺めると、故郷の桜が懐かしい。私には朴の花が思い出の花で家の向いの山と共に今も心に残ります。「朴ひらき大和に花をひとつ足す」澄雄が私の師の句で床の間に飾っております。

オノ

桜咲き孫の合格祝ひたる

「桜咲く」は大学等の合格の電文でもあります。私も会社の試験に合格した昔が懐かしい句です。

レイコ

ほほ染めて桜のトンネル散歩道

これは何処の散歩道だろうか、今では桜並木も多くありますが、大阪の造幣局などは何度も訪ねて懐かしい。薄い紅の花びらが日に類も染める。少しの艶冶を込めた句です。

ヒロ

夜桜の隅田川なる屋形舟

原句は少し変えましたがこれで景の見える句になります。以前は潮来でもアヤメの頃屋形舟があり何度か宴に出かけました、隅田川には花火の頃にも舟が多くあります。

佳作

ヒロ

城山に桜眺めて仲間たち

シロ

城山の風に散りゆく桜かな

ノブ

酒なしで回復途中の花見かな

グッチ

桜咲き春の訪れ嬉しいな

小太郎

桜咲き宴賑ふ平和かな

マッシー

潮騒の桜となりて夢咲かす

アオ

桜花思ひをよせて五日かな

ヨコ

曇り空桜の花も歎きかな

ゴロウ

武士の伝え知りたる桜花

クニオ

曇天に咲いて四分の桜ゆれ

クニオ

美しや悲しきほどの山桜

一休

お花見の弁当食べて帰るなり

アーン

ウグイスの声の先なる桜かな

桐生

肌寒く枝にちらほら寒桜

マコ

桜舞ふ曇り空なり安らげり

シンヤ

桜咲く時の移りの昨日今日

ヒデ

桜咲き天気は曇り淋しいな

トリ

桜咲き曇りなれども風情あり

サブ

桜散り一雨降れば葉桜に

ノブ

潮騒の桜の蕾み今の吾

アベ

春風や髪を豊かに少女たち

マサヤ

桜酒早く飲みてえマジ飲みて

竜一

花見来てマナーの悪い人多し

一郎

桜花寒さ忘れてくつろげり

ワジマ

弁当を食うて花見としたりけり

長吉

夜桜に月食もまた風情かな

イルカ

城山にぽかぽか陽気桜咲く

ハナ

心地よき春の匂ひよ早くこよ

タカコ

暖かな日差しに桜桜咲く

ちな

桜散る名残り惜しそに小鳥鳴く

みく

ひらひらと桜ちりゆく何処へやら

イシダ

桜より出店に集ふ子供たち

イシダ

みどり児の瞳の中の八重桜

ヒロ

年々の出会い別れの桜かな

カート

雪帽子かぶる桜も風情かな

鬼

満開の桜の下にランドセル

ユタカ

一片の花の命の九段坂

ツカ

桜見てうかぶ子の顔今いづこ

受刑者からの手紙

引受人承知で 頑張る意欲と勇気が湧いた

私の場合は保護会に引き受けを申請したのは今回が初めてでしたが、3件も不可になりました。それも半年以上もたってから通知され、再度申請してもどうせまたダメだろうと半ば捨て鉢になっていたさなか、栗原代表の存在を知り、その結果は即、引受人になることを承知して頂いた次第です。自分で言うのも変ですが、今では無事故で頑張ろうとする意欲と、これを持続する勇気が別人のように湧いて、本当に栗原さんや潮騒通信には誠に有難く思っている日々です。

満期出所して、いきなり社会に放り出されても、実際問題として何ら生活設計を立てられず、または刑務所に逆戻りする悪循環が予想されます。私も54歳にもなって、薬の累犯で親も高齢であるため頼むこともできず、満期出所を覚悟しておりました。まだ保護観察所からは正式な許可通知はきておりませんが、潮騒ジョブの存在を知ることができて、本当に感謝しております。同じような立場の受刑者と一緒に薬を止めていく知恵を、潮騒ジョブで養って行きたいと願っています。例え満期出所だとしても、共に頑張りたいものです。

(北海道 S・Y)

いつか完全復帰する田代さんを 楽しみにしたい

満期まで残り半年足らずとなったこのタイミングで、自分の気持ちが整理できていて、良い方向へ進んでいる事は凄く嬉しいし、出所後の自分にとって明るい材料だと感じています。自分は大丈夫、絶対にやり直せる!と日々自分に言い聞かせてイメージトレーニングをしています。この良い心の状態のまま出所の日を迎えられるように、残りの時間を過ごしたいと思います。

この頃、スポーツ新聞等で田代まさしさんの記事を良く目にします。少し前には「マーシーの薬物リハビリ日記」というエッセイが発売になるという事で、本の内容が紹介されていました。その中でダルクの事が書いてあり、同じ境遇の人達のためにという事でゲイ用のダルクもあるとも書いてありました。改めてダルクって凄くと思いました。芸能人の薬物事件は今までも色々ありましたが、どこか遠い世界話だと思っていました。ですが、田代さんがダルクに繋がって回復を目指していると知り、すごく身近な事のように感じています。いつか完全復帰する田代さんを楽しみにしたいです。(以下略)

(北海道 K・Y)

12のステップ、ノートに書いて夜には必ず読んでいます

温かいお手紙と毎月の潮騒通信、誠にありがとうございます。私の方はやっとならぬ農場や清掃班の作業にも慣れてきて当たり前の生活になりつつあります。やっとならぬ(潮騒 JTC)入寮に向けていろいろ考えられる段階です。送って頂いたNAの12のステップをノートに書いて、夜には必ず読んでいます。ただ、理解するには、この環境では少々難しい所もあります。やはり潮騒に入寮させて頂いてから始まるのかな、とも思います。私なりに12ステップを理解するように努めていこうと思っておりますが、間違った理解の仕方をしないように気をつけていかなければ、とも考えております。

第1段階としては、1にある「私たちはアディクションに対して無力であり、生きていく事がどうにもならなくなったことを認めた。」——この事を認めなければ、また同じ事の繰り返しで刑務所に逆戻りの生活になってしまいます。まずは認めることが大事ですね。この事を、コツコツと一日一日大切に考えていこうと思っております。当所を出所して潮騒に入寮させて頂き、薬を使わない生活を、と今はそればかり頭にあるので少々焦っている所もあります。まだまだ先なのですが、一日一日が今、とても早く感じています。もちろん日々の生活が忙しいのがありますが…(笑)。一つお願いがあります。12ステップに関する資料的な書物があれば送ってほしいのです。勝手に言いまして申し訳ありませんが、どうか宜しくお願い致します。

(北海道 S・T)

最近は刑務所内で薬物事件絡みの受刑者には薬物離脱教育が盛んに行われ、各地のダルクもメッセージを運んでいます。潮騒ではまだ実現していませんが、出所後のスムーズな回復の下準備となるよう、文通による濃密なコミュニケーションの構築で受刑者の皆さんと心を通わせています。

靴工場の「釣り込み班」作業で頑張っています

栗原さん、体調など崩していませんか。自分は予想以上の寒い冬を無事に乗り切り、配属になった工場で頑張っています。靴をつくる工場ですが、自分が行っている工程は「釣り込み班」といって靴をつくる上で最も重要であり、一番難しい作業です。早いもので、この作業に従事して10カ月となりました。移動した当初は、難しい工程で作業ができない自分に苛立ち、何度投げ出そうと思ったかしれません。しかし、その都度、周りに声を掛けてもらいながらも頑張り、今に至っています。恐らく社会だったら短気を起こして辞めていただろうと思います。ある意味、忍耐力がついたのかなと感じています。

受刑生活で得るものは何なのかと考えていた時に、今までは「刑が満期になれば出所できる。その間は我慢すればいいや」と漠然とした思いで過ごしてきました。でも、今回栗原さんに身元引受人になって頂き、自分自身もこのまま考え方を改めていると、こんなにも自分のことに手を差し出してくれる人の気持ちを思うと、心機一転、まず自分が変わらなければという気持ちになりました。

ただ、社会は自分が思っている以上に厳しいものだということは伝わってきており、甘い考えや自分本位なことではまたもや周りに迷惑を掛けることになるのは自明です。まだ、ここの分類からは身元引受人の許可は下りてはいませんが、残り1年を切り、社会に出るに当たっては心配等は多々ありますが、今はとにかく目の前にある自分がなくてはならないこと、してはいけないことを考え、十分にわきまえて日々を過ごしていただけます。仮に満期出所になったとしても無事故で頑張りたいと思っています。

(福岡県 O・A)

ダルクや潮騒と繋がりを持つのが一番確実な方法だ

手紙&潮騒通信ありがとうございました。回復していくことの難しさと、潮騒ジョブの皆さんがどれ程頑張って依存症と闘っているのが伝わってきました。皆さんと一緒にならば、私のようなものでも回復への道を歩けると、そう実感できました。心の底から薬をやめたい、今度こそは手を出さずに真っ当な人間になろう。そう思っても、今回のように同じことを繰り返してしまうと、親や兄妹、会社の人に話しても、なかなか信じてもらうことも、理解してもらうこともできません。先日も、以前に働かせてもらっていた会社の社長さんから「きれいごとならいくらでも書ける」と言われました。確かにその通りなのですが、思いを形にすることが難しく、ずっと悩んでおりました。

ですが、今は私の抱える問題、苦しみや不安を理解して下さる潮騒ジョブの皆さんがいること、体は離れていても心は潮騒に繋がっていられることが本当に心強いです。私のような者の悩みは誰に話しても、なかなか理解してもらえないので、話を聞いてもらったり、相談できる人がいることがとても嬉しいです。今回は精神科病棟にも入院しましたが、安定剤と睡眠薬をのみされるだけで、話を聞いてもらうこともできませんでした。薬物もアルコールもギャンブルもタバコも、依存症になってしまうと、やはり一人では抜け出せません。

今私自身が思うことは、一人で悩み苦しんで同じことを繰り返すなら、ダルクや潮騒ジョブと繋がりを持って助けて頂くのが一番確実な方法だということです。シュンさんも、薬を使い続けた過去の生き方から、薬を使わない新しい生き方へと移行することが大切だと教えてくれました。本気で自分と向き合って、自己改善に努めます。

刑期も8カ月を切りました。今回で4度目の入所となりますので、もう仮釈は期待できません。覚醒剤教育も受講させてもらえないようです。でも、潮騒の皆さんと繋がりを持ってたことで、私も決意が固まりました。12月の満期日以降、皆さんと居を同じくし、文字通り繋がって回復への道を歩みたいと強く思います。教えて頂いた12ステップを毎日読んで、今から皆さんとお会いできる日を楽しみにしております。

(北海道 S・T)

等身大の自分と向き合えた幸せを大事したい

▼横浜の回復施設で暫くはリハビリに

昨年7月に、横浜にある回復支援施設からここ潮騒 JTC に移り、施設が提供する回復プログラムを受けてきましたが、5月からはまた横浜の施設に戻り、更にプログラムに取り組むことになりました。本当は社会復帰をにらんで福祉(ケースワーカー)に居宅設定をしてもらい、生活保護を受けながら就労の準備に向けて自助グループの仲間の力を借りながら、静かに病気回復のためのリハビリを続けようと考えていました。でも、まだまだ仕事に就くのは難しい状況なので、今回スポンサーの提案を受け入れ、暫くは施設の中で回復の取り組みに励みます。潮騒で約10カ月、薬物依存症のリハビリに取り組んできた日々は苦しいことの連続でしたが、退寮を前に今は仲間から頂いた喜びと温かさに満たされています。

▼潮騒キャンプ&運動会での霊的な体験

忘れられない思い出があります。3月に土浦市郊外の公共施設でキャンプ&運動会(3月号で既報)があり、私も参加しました。その日の夕食の時でした。みんなと食堂でご飯を食べていたら、「お前も随分たくましくなったなあ」という声が聞こえたのです。「幻聴かな?」と思ったのですが、それは自分の内なる無言の励まし声でした。自分にしか聞こえない霊的な体験だったのかもしれませんが、何故かは分かりませんが、不思議と突然に涙がこぼれ、心が喜びに満たされました。周りの仲間にも悟られたら気恥ずかしいので、タオルで鼻水を吹く仕草でごまかし、あふれる涙を拭いたことを覚えています。

でも、自分の姿は回復を手にした「たくましさ」とは程遠いような気がします。もともと正直にありのままの自分と向き合うのが苦手で、周囲の視線を感じると消え入りたい衝動に駆られます。でも、「今日一日」薬物を使わない効果なのでしょうか、人に与える印象も変わってきたようです。かつては薬物依存による思い通りにならない人生の連続で、惨めさや苦しさに陥ってしまう場面が多かったのですが、潮騒での回復生活を通して、自分の中にゆっくりと“心の平安”が入ってきて、「俺はこれでいいんだ」と素直にありのままの自分を肯定できるようになりました。

▼あがきながらも今日一日のプログラムで

そうは言っても、やはり先の事を考えると不安と恐れで胸が苦しくなります。都市部なので横浜の施設は潮騒よりも狭く、時間もここより早く流れている所だったように覚えています。その中で、自分のやりたいプログラム(12のステップ)に取り組むことは、そうそう許してはもらえないだろうと思います。潮騒のゆっくりとしたプログラム環境の中で、ゆっくりと自分の中に入ってきた回復の喜びを、横浜でも同じように保てるだろうか、と不安の先取りが自分を襲います。改めて自分は、ここで出会った仲間、ゆったりとした時間の流れ、そして潮騒独自のプログラムに救われ、今日まで「薬物のない1日」を積み重ねて来れたのだと、思い知らされています。

そのほか潮騒に来て良かったと思うことの一つに、夜空を見上げると満天に星がきれいなことがあります。星座について何ら知識はありませんが、お陰で星空を眺めるのが好きになりました。一夜に5つもの流れ星を見つけたこともありました。横浜では少し忙しい施設生活になるでしょうが、潮騒で与えられた等身大の自分と向き合うことができる幸せと成長を大事にします。今の自分を、そっと優しく抱くように日々を過ごしたいのですが、アディクトである自分に病気回復のためのプログラムは、そう悠長には待つてはくれません。次の喜びに出会えるまで、どこに居る時も出会った仲間と共に、あがきながら今日一日のプログラムに取り組んでいきます。「俺の夢! 薬物のない人生! キープカミング、バック」。(クニオ)

4月のバースデー

タカヒロ



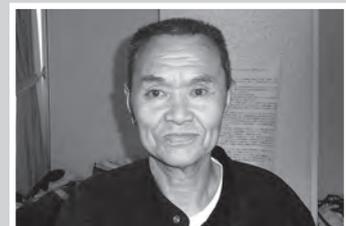
今年で退寮したい。!!

マツ



スタッフを目指します。
クリーンを長続きさせるぞ!

マリオ



これからお酒を飲まず、
頑張ります。!たぶん…。

4月の行事予定

- 3日 潮騒花見
- 9日 潮騒俳句会
- 12日 秋元病院メッセージ
- 18日 秋元病院メッセージ
- 20日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
- 25日 第5回山梨ダルクセミナー
- 26日 潮騒家族会
- 30日 映画会

5月の行事予定

- 5日 ボーリング大会
- 7日 潮騒俳句会
- 10日 秋元病院メッセージ
- 16日 秋元病院メッセージ
- 18日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
- 24日 潮騒家族会
- 28日 潮騒映画会
- 31日 潮騒アディクションセミナー

編集後記

若い頃、東南アジアの国々を何度か貧乏旅行したことがある。困ったのは、一様に時間にルーズだったこと。バスや電車はまず時間通りには走らない。初めは面食らったが、次第にアバウトな「現地時間」に慣れてくると、そんなに矛盾や齟齬が感じられなくなる。むしろ何事においても時間に縛られ、わずかな遅れにも敏感に反応する日本人の時間感覚が「異常」に思えてくるから不思議だ。「郷に入っては郷に従え」の教えの通り、国民性や流れる時間の感覚の違いを意識させられた ▼偏見かもしれないが、依存症者にも東南アジア的な時間感覚のような人が多い。とりわけ高齢依存症者にその傾向が強いように

思う。いや、健常者でも人間老いれば行動がスローとなるのに合わせて、時間管理もスローになるようだ。高齢者に差し掛かった自分を見つめると、それが妙に腑に落ちる。今回、クニオさんの潮騒回復記を読んで、「我が意を得たり」の感を強くした。潮騒には行き場のない高齢者が増え、施設内の時間も自然とスローに流れるようになったように思う。忙しい社会の動きとは逆の流れかもしれないが、そういう空間があってもいい ▼どうやら私たちは、これまでの社会を動かす原理（効率性、合理性の追求）が必ずしも幸せな社会ではないと、薄々気づき始めた。ここは一つ、ダルクや潮騒の考えや行動に注目してほしい。(市)

献金・献品を頂いた方 (4月15日現在)

- ・品川区 渡辺 洋子 様
- ・豊田市 横山 様

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。
 ※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

今月も献金・献品をいただきました。
 心から感謝申し上げます。
 本当にありがとうございました。
 おかげさまで潮騒 JTC は、
 回復のためのプログラムを実践することが
 できておりますことをご報告いたします。
 今後ともご支援くださいますよう、
 なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

潮騒通信 どっこい生きてます! 2015年4月号**Contents**

- P ② 潮騒農業は未来への希望と可能性を秘める
- P ③ 今年の花見は近場の城山公園でサクラを満喫
- P ④ どっこい作業隊も忘れないで～
「手に職を持つ」プロ集団の取り組み
- P ⑥ 女性施設メンバーも熱心に農業プログラムに励む
「道の駅いたこ」で冷凍青パパイアの販売がスタート
入寮者家族から贈り物(献品)
とかちダルクフォーラムに栗原センター長が参加
外部の回復者メッセージを通して自分も決意を新たに
- P ⑧ 近藤恒夫氏インタビュー「ダルクと就労支援について」Vol.4
- P ⑨ しおさい俳壇 4月「さくら」
- P ⑫ 受刑者からの手紙
- P ⑭ どっこい私も生きてます No.1「クニオ回復記」

■ 編集・発行 :

特定非営利活動法人
 潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
 TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091
 潮騒リカバリーホーム(中施設)
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号
 〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
 TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098
 潮騒スリークオーターハウス鉦田
 〒311-2113 茨城県鉦田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jpホームページ <http://shiosaidarc.com/>

